草の根の声は〝廃案〟

戦争法案反対 各地で行動

「戦争NO」のボードを掲げる参加者＝2日、名古屋市守山区

初の集会に150人が参加

■名古屋・守山区

名古屋市守山区の小幡駅南公園で2日夜、「安倍暴走ストップ！戦争法案廃案を求める守山集会&パレード」が開かれました。同区での集会・パレードは初めてで、区民150人が参加しました。守山労連や新婦人守山支部など6団体でつくる戦争立法ストップ！守山共同センターの主催。

リレートークで警鐘寺住職の鈴木正見さんや子育てママらが「戦没者だけでなく戦後の食糧難で亡くなった子も供養してきた。新たな戦争犠牲者を供養することはあってはならない」「子どもの未来のため、将来に悔いを残さないため、戦争法案廃案へ今ががんばり時」と訴えました。

集会は「運動を広げ戦争法案の廃案、安倍政権の退陣を勝ち取る集会アピール」を採択。集会後、参加者は「戦争NO」と書いたボードやペンライトを掲げ区内をパレードしました。

共同センター事務局の三浦勤さん（67）は「署名や宣伝は何回もやっているが集会は初めて。地域の人が気軽に参加できるようにと開いた」と話しました。2歳の子どもを連れて参加した女性（27）は「何か意思表示したかった。小さい子がいるので大きな集会には行けなかったから」と語りました。

共同センターは各党に参加を呼びかけ、日本共産党の、くれまつ順子市議が連帯のあいさつをし、民主党の古川元久衆院議員からメッセージが寄せられました。

初めてデモ膨れ上がり

■金沢・寺町台

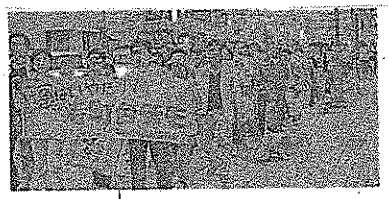
金沢市で2日夕、戦争法案に反対する「戦争はいやだ！寺町台デモ」が初めて行われました。呼びかけたのは、地元の共産党支部など4団体でつくる実行委員会。

デモは、健生クリニック駐車場を出発したときは約100人だったのが、寺町交差点まで約1時間行進するうちに参加者が増え、150人に膨れ上がりました。

出発前の集会で、元党金沢市議の奥野秀也さんがあいさつし、「今日は祖父の命日、『戦争は絶対繰り返してはならない』とよく言っていたのを思い出す。デモの途中には県営平和町住宅がある。地元から平和の願いを発信していこう」と述べました。

山田優子健生クリニック所長は、「あらゆる紛争は決して武器を使わず話し合いで解決すべきです。戦争法案を廃案にして日本国民の良心を示そう」と訴えました。

参加者は、「戦争法案絶対反対」「憲法守れ」「9条守れ」とコールして市民にアピールしました。



デモ行進する参加者＝2日、金沢市平和町

宣伝続けて変化を実感

■新潟・守る会

新潟県生活と健康を守る会連合会は、新潟市で6月から毎週水曜昼に戦争法案反対の街頭宣伝を続け、2日には10人が参加して13回目の宣伝をしました。

井浦正・新潟市生活と健康を守る会会長が「自衛隊の後方支援（兵たん）は食料や給油、武器・弾薬にとどまらず、非人道兵器の輸送まで歯止めがないことが明らかになった。私たちは憲法9条や25条を守り、平和で安心して暮らせる社会をつくるために活動している。戦争法案廃案の一点で力を合わせよう」と訴えました。

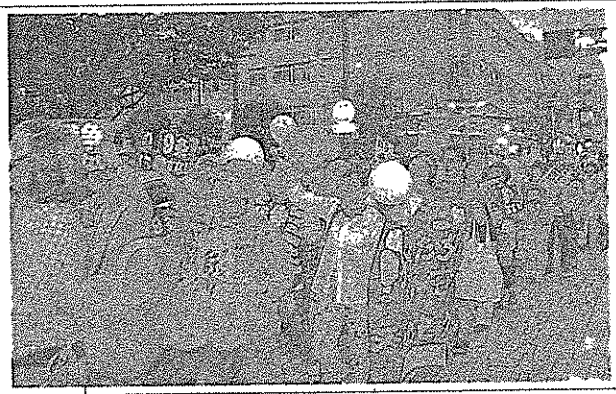
通行中の女性は「法案の危険性がだんだん心配になってきた。法案の強行はやめてほしい。皆さんの頑張りに励まされる」と話しました。

宣伝の継続で、ビラの受け取りがよくなり、会社員や学生も増えています。車の窓を開けてビラをくれというタクシー運転手や、「絶対止めてください」と語る年配の女性3人も。毎回下を向きながらビラを受け取っていた男性が顔を上げて「頑張ってくれ」と話すように変わりました。

渡辺和子県連会長は「戦争になれば一番犠牲になるのは障害者や弱者。社会保障も削られるので生活に直結する問題。なんとしても止めるため、来週から週3回宣伝し、各地域でも大勢が参加するよう頑張りたい」と語りました。

赤身につけ初パレード

■静岡・葵区



戦争法案の廃案を訴えてにぎやかにパレードする女性たち＝2日、静岡市葵区

「戦争法案いますぐ廃案」「レッドカード安倍政権」―。静岡市葵区で2日、赤いものを身につけ、色とりどりの風船やプラカードを持った女性たち100人のにぎやかなパレードが行われました。沿道で足を止めて見入る人も多く、若い男性5人が飛び入りで参加しました。

主催は、医師、保育士、高校教師、民主団体代表など17人が呼びかけた「憲法の戦争法案は許さない　女性のレッドアクション静岡」。これまで2度街頭宣伝を行ってきましたが、今回はさらに広い市民にアピールしようとパレードを初めて行いました。

出発前集会で、呼びかけ人の狛谷たか子・県母親大会連絡会会長は「8月30日には静岡市でも1100人集まり、開催したことのない地域でも行動があった。憲法で保障された国民主権を行動で示して、法案反対の世論を広げ、国民の声を聞かない安倍政権を退陣させよう」と呼びかけました。

リレートークでは「私たちが育てている子どもたちが戦争の不安なく夢を持って生きていける平和な社会を続けさせたい」（子育て世代の保育士）、「製薬会社のもうけを優先させる日本は先進国の中では薬害の多い国。今度は兵器を売るために戦争に向かう。こんなことはなんとしてもやめさせたい」（薬剤師）などの発言があります。戦争法案に反対しましょう」と声をかけてビラを渡し、1時間で1900枚を配布しました。いったん止まって演説を聞く中高年の女性の姿もありました。

林議長は、「安倍政権が集団的自衛権行使の例としてあげたホルムズ海峡の機雷掃海は、イラン政府が封鎖を否定するなど立法の根拠は総崩れです。『戦争したくない』の気持ちを行動にして、廃案に追い込みましょう」と訴えました。

気持ちを行動に3市で街頭宣伝

■静岡・県評

静岡県労働組合評議会は2日、全労連の「戦争法案ゼッタイ廃案！全国統一行動」として静岡、浜松、沼津の各市で街頭宣伝を行いました。

静岡市葵区の静岡駅コンコースでは、県評の林克議長、地区労連の望月金一事務局長ら15人が出勤・通学者に「おはようございます」と訴えました。

パレードに初めて参加した大学4年生の高島沙彩さん（23）は「戦争を経験した人たちが思い出すのもつらい体験を伝えてくれ、戦争を二度としないようにと訴えてくれている。体験者の願いを踏みにじらせるわけにはいかない」と語りました。

日本共産党の鈴木ちか参院選挙区候補も呼びかけ人の1人として参加しました。

9/4 赤旗